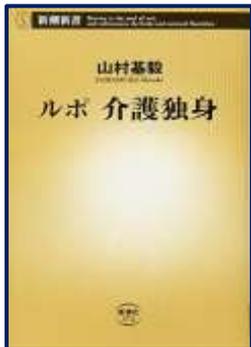


本年度は「雪、月、風、花」をテーマにして、人生に寄り添う本たちをご紹介します。
今号のテーマは風、あなたの背を、そっと押してくれる風のそよぎを、どうぞ

※書籍右横の番号はセンターでの検索番号です。



ルポ 介護独身

2014年 新潮社

山村 基毅 (著)

[1000-2]

ある日突然始まる介護者としての生活。それが独身者の場合は準備期間を経ないまま、「親と同居しているから」という理由だけで介護に関する一切を一人で抱え込んでしまうことになる。崩れていく親を見続けるつらさや睡眠不足、死に向き合う以外に解決策が見出せない日々の葛藤は、理性を失えば悲惨な事件に繋がる危険性をも潜ませている。介護に携わる独身者取材してその苦悩を綴った本書。「苦しみを語り合える仲間がいる、安らぎを得る道もある。希望を」…。著者のこの想いが、多くの人に届きますように。(みっと)



私の中のわたしたち

—解離性同一性障害を生きのびて—

2017年 国書刊行会

オルガ・R・トゥルヒーヨ (著)

伊藤淑子 (訳)

[1100-1]

幼時からの性的虐待で、解離性同一性障害 (D I D) を発症した著者。31才でD I Dと診断され、周囲の助けを受けて病と向き合い、分断された記憶を思い出し、自分自身を統合してきた治癒過程を元に本書を著した。暴力をD I Dというシェルターで生き延びた彼女は周囲の親切や励ましが人生を変え、ひどいことをされても、しあわせな満たされた人生を送れると云う。

自分の何気ないひとことや仕草が、だれかを幸せにすることができる。

当事者や支援者でなくとも、ぜひご一読を。(ルナ)



崖っぷちの覚悟
- 年齢制限!?関係なし!

2010年 三五館

井原 慶子 (著)

[1100-1]

25歳でカーレーサーに転身した著者。「年齢の壁・性別の壁・国籍の壁」と、さまざまな壁を乗り越えてきたが、乗り越えることに最も時間がかかった壁は、「自分で作った壁」だった。一度きりの人生、どんな時を過ごして生きたいのか。本当にやりたいことが見つかるまでは、自分で自分を敵にしてあきらめてきたが、心に情熱の灯がともると、いつのまにか自分の中の敵を味方に変化させていった。「夢は必ず果たせる」と、日々を綴ったこの本の、さらっと書かれて勢いのある言葉。読み進むにつれ、何かを始めたくなる。(ぽっと)



植物図鑑

2009年 KADOKAWA

有川 浩 (著)

[1200-2]

「お嬢さん、よかったら俺を拾ってくれませんか。決してかみません」。凍てつく冬の夜、マンションの植え込みで倒れていた若い男を思わず拾ってしまった主人公さやか。イツキと名乗るその男は野草を愛する家事万能のイケメンだった。二人の共同生活が始まる。

週末は風を切って自転車を走らせ野草狩りへ。フキノトウ、つくし、たんぽぽ…。季節を追いながら愛を深める二人。そして冬、「ごめん。またいつか」だけの言葉を残して彼は去って行った。悲しみを振り払い、前向き恋人たちを描いた本書。爽やかな感動が。(みっと)